

記事掲載：2022年7月

翻訳：2022年8月

教育が変化をもたらすとき



Photo credit: UNCIEF / Chad / Nancy Ndallah

#222MillionDreams (2億2200万人の子どもたちの夢) :

ECWの資金援助をもとに、イエズス会難民サービスとユニセフはチャドで学校教材や障害者用の生活用具を提供しています

この記事の[原文](#)は、ユニセフチャド事務所によりフランス語で執筆されました。

著者：ナンシー・ンダラ

クリスマス休暇を前にした学校の最終日。ハジェ・アルハジさん（10歳）、アハタ・ドゴさん（12歳）、ンゴレラム・アバカールさん（11歳）の3人はとても仲の良い友達です。彼女たち全員は、共通の試練を経験しています—紛争によって移住を余儀なくされ、また、攻撃される恐怖に怯えています。しかし、彼女たちは同時に、希望を持ち、回復するためのしなやかな力（レジリエンス）を持っています。

この3人のように、緊急の教育支援を必要とする 2億2,200万人の危機的状況にある子どもたちがいます。うち7,800万人以上の子どもたちがまったく学校に通っていません。この2億2,200万人の子どもたちは、夢の実現がさえぎられているのです。同時に、この2億2,200万人の子どもたちは、子どもたちを誰ひとり置き去りにしないためのグローバルキャンペーンである#222MillionDreamsが対象とする子どもたちです。

緊急事態や長期化した危機における教育のための国連の世界基金であるECWの支援により、チャドのこの3人の少女や彼女たちのような子どもたちは、安全で質の高い学習環境にアクセスできるようになりました。この支援は、イエズス会難民サービスやユニセフとの連携で実施される複数年に渡るプログラムを通じて実施され、チャドのラク州にあるカヤ小学校では、子どもたちの教育への夢が現実のものになりつつあります。

これは忍耐強さや友情の物語です。

そして、アフリカに暮らす失われた世代の数多くの人々の可能性を示す物語です。



Photo credit: UNCIEF / Chad / Nancy Ndallah

校庭や教室を掃除した後、先生は学校が 10 日間のクリスマス休暇に入ることを、嬉しそうに生徒たちに伝えました。さっそく、校庭に子どもたちが集まって、楽しそうな小さな輪ができました。

ハジェさん、アハタさん、ンゴレラムさんの 3 人は、チャド湖周辺地域で発生している暴力事件によって避難民となった人たちのための場所にある自宅へと向かいます。家族連れ、高齢者たち、子どもたちや大人が暮らすこの場所は、テロ組織であるボコ・ハラムの攻撃を受けた後、2015 年に作られました。度重なる攻撃や脅威により、ラク州に住む 45 万人以上の人々（国内避難民や難民）が避難を余儀なくされています。また、近隣諸国に住んでいた多くのチャド人が、気候変動に関連する食糧難などの危機により、チャドに帰還しています。

少し離れたところでは、3 人が木の下に座り、木陰で湖からの新鮮な空気を楽しんでいます。そして、ハジェさんは 2 人にこう話します。「このクリスマス休暇には、水を汲んだり、薪を探したり、料理をしたりするの」と。

隣国からカヤ地域にハジェさんの家族が引っ越してきたとき、彼女はまだ 5 歳でした。それ以来、彼女の生活は良くなりました。定期的に学校に通い、新しい友達もでき、何よりも母国の戦争の危険から遠く離れた場所にいられるのです。

このプログラムを通じて、ハジェさんは勉強に専念し、カヤ地域にいる 500 人の生徒たちと共に成長することができます。

この資金援助の一環として、798 個の学用品と 36,831 個のリュックサックが、マムディの 36,831 人の生徒（うち女子生徒 16,932 人）に配られました。さらに、452 人の教員が指導教材を受け取りました。



Photo credit: Jesuit Refugee Service / Chad / Irene Galera

すべての少女にインクルーシブで質の高い教育を

ECW の投資は、バガ・ソラに住む障害のある 15 歳の少女、マレンベさんのような少女へのインクルーシブ教育にも貢献してきました。

ナイジェリア出身のマレンベさんは、2019 年からダルエスサラーム難民キャンプに住んでいます。彼女は現在、初等教育クラスで学び、新しい三輪の車椅子でより簡単に移動できるようになりました。

「ナイジェリアの故郷より、ここでの生活の方が良いです。ここは、安全だと思えます。ナイジェリアでは、ボコ・ハラムが常に攻撃してくるので、学校に通うことが怖かったです。ダルエスサラーム難民キャンプに着いたとき、私はすぐに学校に入学しました。しかし、障害があるため、通学は大変でした。授業に出席するために、毎日、家と学校の間を 30 分間這って進まなければなりません。2021 年 12 月 1 日、私は三輪の車椅子をもらいました。今では移動が楽になり、外で友達と遊ぶことができるようになり、学校に通うことも苦にならなくなりました」とマレンベさんは言います。

ECW によるチャドへの資金援助は、ユニセフとイエズス会難民サービスの支援を通じて、子どもたちに届けられています。マレンベさんのような避難民や難民の子どもたちに教育を続ける機会を与え、緊急事態や長引く危機の影響を受けたコミュニティの少女や少年たちが、公平で安全な学習環境で教育を受けられるようにするために使われています。マレンベさんやハジェさんのような子どもたちの支援を継続するために、ECW は、すべての子どもたちが教育を受けられるようにし、2 億 2,200 万人の夢を実現するという約束を果たすため、戦略的パートナーからの支援を求めています。



授業が終わり、年末年始のクリスマス休暇の始まりです。
カヤ地域では、生徒たちは数週間のお休みを家で過ごします。
Photo credit: UNCIEF / Chad /Nancy Ndallah

※カヤはチャドのラク州にある避難民が暮らす地域です

※イエズス会難民サービスは本プロジェクトを実施するパートナー団体です

【翻訳前の記事（英語）】

<https://www.educationcannotwait.org/news-stories/human-stories/when-education-makes-difference>